釣れ釣れなるままに

２０１０年思い出の釣行記 PART.　7

奇跡を追う

鹿島釣狂

札幌竿道会大会

☆開 催 日　　平成２２年１０月１０日

☆開催場所　　賀張～入船

☆入釣場所　　新冠川河口→判官館

☆釣　　果　　アカハラ　１　ハゴトコ　９

札幌竿道会

　出勤途中に携帯が鳴る。「竿道会」の湯浅伸一氏から「１０日の大会に矢根政仁氏、荻野一利氏と一緒に参加しよう。」というお誘いである。竿道会といえば名うてのツワモノぞろいで恐れ多いが、この機会に札幌の釣り会の雰囲気を味わうのもいいだろう。釣場範囲は賀張～静内入船漁港で、余り馴染みがないが、岩見沢釣遊会に入会して初優勝したところではある。新冠川河口に入ってカジカを大釣りし、やっとの思いで手にした嫁が４５㎝を超えるカンカイだったのだ。

　早速情報集めをする。「北海道のつり」で過去の記録を探っていくと「２００４年間優勝者が明かすポイントガイド」で大杉和洋氏が厚別川左岸の様子を紹介した記事が掲載されていた。潮も今回と同じようなので、第一の候補とする。荻野氏に伺うと「１０月といえども今年の夏の猛暑でまだまだ海水温は高めに推移しておりカジカの岸寄りは見込めない。竿道会は２魚種身長＋１０尾重量制なのでアカハラを確保しなくては難しい。静内川河口が狙い目だが嫁を捕るのに苦労するところだ。しかも、竿道会はキャスター利用を禁止し

ているので嫁探しのための移動もなかなか厳しい。」
　エサを買っていると偶然「北海道名人会」の森田正実氏に出くわした。「カジカはまだ入ってきていないのでアカハラ狙いになるだろう。今日は波が高いという予報なので静内川右では苦戦を強いられが、静内川左の磯は時化に強くカジカもみこめる。あんたが大釣りした判官館裏は根境とトンネルとの中間あたりが少し深くなっており比較的良い。大狩部なら菅原信幸氏にくっついて行け」
　釣遊会の嵐氏の店に立ち寄る。「大狩部は三角岩あたりが有望だろう。以前、一緒に入った竿道会の宮野一成氏が９０番で記録的な大釣りした」。入釣候補を厚別川左岸、大狩部三角岩、新冠判官館、静内川左岸に絞った。
　今日は、岩見沢の４人が湯浅氏の車で集合場所である札幌中央市場に向かうことになっている。湯浅氏宅に着くとその隣に八大龍王大自然愛信教団の煌びやかな寺院があった。寺院の入り口に教義を要約した大きな看板が掲げられていたので目を通してみる。動植物の霊供養、神仏帰依、報恩感謝の言葉が並んでいる中に、馬頭観音に触れた文章があった。その馬頭観音の言葉に大会初優勝した新冠川河口への釣行が蘇ったのだ。バスから降りて街灯のない真っ暗な細道を心細い気持ちで河口へ向かって歩いていると、突然キャップライトに照らしだされた不動明王のような大仏像が浮かび上がったのだ。閻魔の形相をした馬頭観音像だった。その時はその像に向かって手を合わせて大漁を祈願した結果、初の優勝となったのである。御利益があったかどうかは定かではないが、これも何かの縁だろう。今回もその馬頭観音に手を合わせてみようと思い入釣場所を新冠川河口から判官館裏と決定した。古い資料だが今年の狙いに定めたタカノハマークも付いている。
　バスに乗り込むと「北海道のつり」で名前の拝見したことのある名手たちばかりである。お客として紹介されたが、その名人たちに温かな拍手を送って頂いた。偶然にも森田氏に「一緒について行け」と紹介された菅原氏が隣の席だった。彼はたまたま足の調子が今一で近間の節婦を攻めるということなので大狩部には付いていくことは出来なかったが、釣りについては色々とご教授賜った。
　輪厚（ワッツ）のインターチェンジでトラブルが発生した。バス後輪のチューブがタイヤからはみ出し妊娠状態なのだ。輪厚に併設されたガソリンスタンドでは手に負えないという。さらに、バス会社に電話して代替のバスを手配してもらおうとするが当番が酒を飲んでしまった後だというのだ。結局、修理店を手配して駆けつけてもらうことになった。箱車の片側が大きく開いてステージに代替できる車が到着した。歌に自信があるのだろうか「ワンマンショーでもやるか」などと気さくな会話で場を和ましてくれる。皆、早く釣り場に着きたい思いでキリキリとした心持ちなのだろうが、そんな素振りは露とも見せない。２時間ほどのロスタイムだった。
　日が開けた１時頃、新冠川に架かる橋の手前で降ろしてもらう。ファンホース新冠ユースホステルに向かう道を歩いて行くと見覚えのある馬頭観音像が見えてきた。荷物を背にしたまま馬頭観音像に手を合わせカシワ手も打ってみる。なんだか凛とした心持ちになり、

背骨もシャンとして１㎞近い道程も荷物を一度も下ろさないで河口に着いた。途中、藪の沢などの高低差をもろともせずに下りたり上ったりしたのだ。退職してから体力がグングンと回復しているのを感じる。

判官館

磯波が結構ある。風が強く雨も降っている中でアカハラ仕掛けをドボンドボンとやる。まもなく３５㎝ほどのアカハラがやってきたが、それ１匹で波がいよいよ高くなり打つことが出来なくなった。トンネル横でオーバーハングした岩壁の陰に荷物を避難させて自分も雨宿りを兼ねた休憩を取った。竿道会は川での釣りも許されているのを思い出し、川筋に竿を移動して打ってみるが一向にアタリが無く、潮も満ちてきて撤退を余儀なくさせられる。どうしたものか？

トンネルを抜けて判官館の方に様子を見に行く。荷物を一旦トンネルを抜けたところに置いて先に進んでみると、森田氏に教わった場所に釣り人がいる。判官館入り口で下りた竿道会若手の樫山靖治氏である。ハゴトコばかりでどうにもならないという素振りだが丁寧に打ち返している。仕方なくトンネル前に戻って自分も打ち返すことになる。海藻もなく、高波にオモリが流されてゴツゴツとした感触が伝わってくる。魚の気配は感じられない。

今度は判官館の根境に入った湯浅氏、矢根氏の所へ訪問する。湯浅氏はカジカを確保していた。矢根氏はゴミがひどいので節婦方向に向かったそうだ。ここも厳しそうで釣り場に戻って最後まで頑張ることにする。殴りつけるような雨で胸ポケットに入れておいたタバコが雨を吸ってしまった。トンネル内に避難させておいたリュックから予備のタバコを取り出して一服付ける。

タバコが１０月から値上がりした。３００円のものが４１０円になったというから禁煙しなければならないだろうか。昨今の愛煙家に対する世のバッシングから何度かやめようと思ったことはあるが、１日とて実行したことはない。この際だから半年分買って、それが無くなった半年後に決断しようと思う。半年の猶予を与えたわけだが、結局は吸い続けることになるのだろう。

トンネル内で雨宿りしながらハゴトコばかり規定の魚は揃えたが大物は１本も来なかった。締め切り時間が迫り、判官館入り口に向かって１㎞ほどの道なき道をとぼとぼと歩くことになった。審査の結果はやはり名手揃いの竿道会である。この悪条件にもかかわらず、そして日高のものとは思えないような５０㎝を超えるアカハラがゴロゴロと出てきた。特に厚別川河口組が気を吐いていた。私は釣果こそすぐれなかったが、竿道会の釣りに触れたことがなによりの慰みだった。

審査結果　（２種＋１０）

優　　勝	浜田正博	１８０２点	厚別川
準優勝	越智靖基	１７０３点	厚別川
３　　位	柴田　稔	１５６４点	厚別川
４　　位	佐藤吉太郎		静内川
５　　位	菅原信幸		節　　婦
身長優勝	越智靖基	アカハラ５６㎝	厚別川

雨風が強く、荷物はトンネルの陰に避難させた。何度か列車の汽笛に驚かされながらも、タバコはトンネル内で火を付けた。

岩見沢釣遊会第６回大会

☆開 催 日	平成２２年１０月１７日		
☆開催場所	庶野港～美幌川		
☆入釣場所	オニトップ		
☆釣　　果	アブラコ	３９４	㎜　９
	アカハラ	３０５	㎜　１
	重量	４７３	０ｇ
☆成　　績	合計点数	１１７２	点（２魚種身長＋１０匹重量）
	成績	４	位

狙いはタカノハなのだが

目まぐるしく天気予報が変わる。数日前の予報では横殴りの雨や高波を覚悟していたが、大会当日は比較的良い条件に恵まれて、釣りの内容は別として快適な釣りをすることができた。

今回の大会は参加者が少なく大変寂しいものとなった。バスの中での会話も、最近の不振を嘆くものが多かった。ある会では、異常な海水温のために魚を提出した者が半数しかいなかったとか、ひどい気象条件が重なり全員での釣果がハゴトコ３匹という悲惨なものだったというのを聞かされた。今日はどんな魚が出るのだろう。私はいまだに日の目を見ないタカノハを狙おうと、性懲りもなくオニトップに下りた。古い記事を頼りにして９月の「とんとん会」で狙ったのだが惨敗だったのだ。

早い時間帯だったので、周辺には釣り人はおらず、まずは点々と続く露頭岩の左で竿を

出す。しかし、３時間ほど粘ったのだが、ハゴトコ数匹の後に３０㎝ほどのアカハラが来たのみで大物の感触は得られなかった。オニトップ川から露頭岩左までの１００ｍ程を右に左にと移動し、広範囲に探ってみるが結果は同じだった。

移動場所を探して付近の様子を眺めながら岬トンネル方向にしばらく歩いてみる。次の狙いとしていた所には大漁会、そしてその次の狙いとしていた所には金漁会の会員が入っていた。バッカンを覗かしてもらうと、それぞれ良形のアブラコを忍ばせていたが、私が入釣する場所はないようだ。とって返して荒磯トンネル裏の旧道を歩いてみる。荒磯というだけあって浅い海に露頭岩が転々とし、未熟な私には手を出せそうにもない。防潮堤に付いた鉄梯子を下りたり、階段状になっているところから磯に下りたりしながら何とか打てるところはないかと眺めていると、盛り上がった波が砕けて溝になっているような所を発見した。ここに移動しようかと思案していると、荒磯トンネルの南口から車が入ってきた。個人釣行で磯の状態を見ているらしい。この辺りには何度となく足を運んでいるようであり、ポイントをいくつか教えてもらった。しかし、今ほど発見したばかりのポイントと思われるところで竿を出し始めた。何でも「北の釣り会」の沢田会長が得意としている場所らしい。

なんだか歩いている内に時間ばかりが経ってしまい、水平線から日が昇ってきた。人間とは不思議なものだ。この陽光を浴びて体中から新たなエネルギーが沸き上がってくるのを感じる。もとの釣り場に戻り、あらためてエサを付け替えて竿を振る。遠投でコツンコツンというアタリの後に糸ふけが出た。道糸を張るとまた糸ふけが出る。もう一度糸ふけをとってグングンときたところで竿を煽ると乗った。なかなかの抵抗感であったが、波打ち際に姿を現したのは３０㎝を少し超えたばかりのタカノハだった。カレイとしては申し分ないが審査対象外である。しかし、間違いなくタカノハはいたのである。消え入りそうだった気持ちに再び火が付いて俄然やる気が出てきた。大会の成績は二の次で大物タカノハ一発狙いに定めてここで最後まで頑張ることにした。

その後、遠投していたタカノハ仕掛にアブラコの４０㎝級が来ただけで、結局タカノハの顔は拝めなかった。今年は成績を度外視してタカノハを追ってきたが、次回最終回に賭けようと思っている。

審査結果

優　勝	嵐　光博	１２５０点	(アブラコ380㎜+カジカ　370㎜+5000g)	サルル
準優勝	島　強二	１２２３点	(アブラコ372㎜+カジカ　339㎜+5160g)	三　島
３　位	前野達志	１２０５点	(アブラコ405㎜+カジカ　310㎜+4900g)	サルル
４　位	鹿島釣狂	１１７２点	(アブラコ394㎜+アカハラ305㎜+4730g)	オニトップ
５　位	川原要四郎	１１２８点	(アブラコ363㎜+カジカ　347㎜+4180g)	重　蔵
身長優勝	岩本　満	アブラコ	４１０㎜	サルル

審査中にアブラコを盗み出した猫の親子。シロ「ほら、おいしそうな魚だよ」ミケ「母さん、ぼくのためにとってきてくれたんだね」この１尾が順位を下げることになるとも知らずに・・・。

上段左から　４　位：鹿島　釣狂　５　位：川原要四郎　　身　長：岩本　満
下段左から　準優勝：島　強二　優　勝：嵐　光博　　３　位：前野達志